

第4章 小串構内医学部附属病院MRI棟新営に伴う試掘調査

1 調査の経過

小串構内のほぼ中央部、附属病院病棟の南西40mの地域にMRI棟の新営が計画された。病棟の敷地では、昭和62・63年度の調査でナイフ形石器・削器・二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・敲石・石核など、後期旧石器時代の所産と考えられる石器群が出土している^{1) 2)}。これらの遺物は、病棟南西隅に堆積する灰色砂層に限定的に包含されており、新営予定地にも同層が分布していることが予想された。灰色砂層は周辺から流入した二次堆積層であったが、比較的良好な石器群を包含していることから、病棟敷地南側周辺での開発行為については埋蔵文化財保護上の手続きが必要であった。

上記の調査結果を踏まえて、埋蔵文化財資料館運営委員会はまず、予定地内の灰色砂層の堆積範囲および埋蔵文化財の分布状況を把握するため、試掘調査を実施することとした。また、顕著な遺構・遺物包含層が検出された場合には、再度、同委員会においてその取り扱いについて協議することとした。

予定地は駐車場に使われていたが、慢性的な駐車場不足のため、駐車スペースを可能な限り確保したい旨の要望もあったことから、試掘調査は、既設の埋設管を回避して、予定地南辺部および北東部に幅約1～1.5mのトレンチを計3ヶ所設定して行った。

なお、病棟敷地では過去の調査で、旧水田耕作土中にも石器が含まれていることが確認されていることから、重機による排土は構内造成時等の埋め土までにとどめ、以下の堆積層は手掘りによる分層発掘を行った。

調査期間は平成元年6月26日から7月6日までで、調査面積は約45㎡である。

2 層位 (Fig. 25, PL. 23(2)～(4))

A トレンチ

新営予定地の南西部に東西に設定した1.5m×4.4mのトレンチ。現地表面から約80～95cmまでは構内造成時等の埋め土

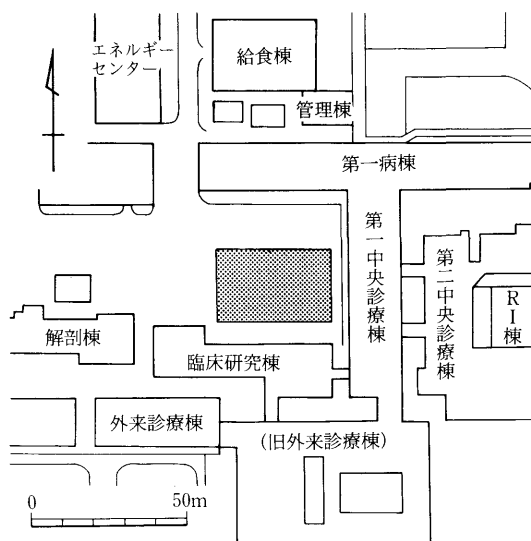


Fig. 23 調査区位置図

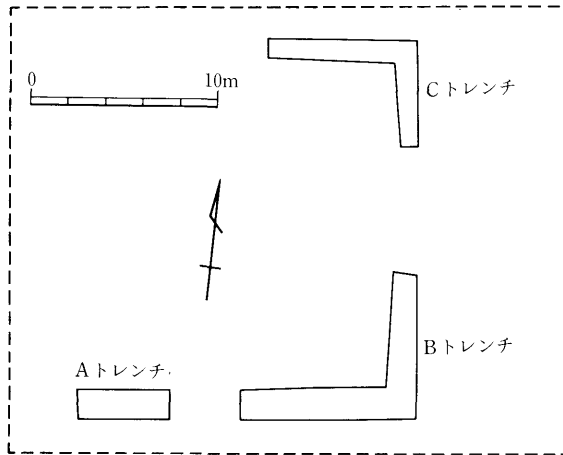


Fig. 24 トレンチ設定図

で、その下には新旧2層の旧水田耕作土が認められる。上層の第2層は層厚15~20 cmであるが、下層の第3層はブロック状に部分的に残存するにすぎない。床土相当層は存在しない。その下位には東端部にわずかに堆積する緑灰色土を挟んで、層厚約10~20 cmの黄褐色粘質土、層厚40 cm以上のオリーブ色砂に続く。黄褐色粘質土、オリーブ色砂とも植物遺体を含んでいる。

遺物は、上層の旧水田耕作土から削器、細石刃が出土した。しかし、それ以下の堆積層からの出土遺物はなく、また、病棟敷地で認められた灰色砂層相当層も堆積していないことから、掘削はオリーブ色砂までにとどめた。

B トレンチ

新営予定地の南東部に設定した東西1.5m×9.5m、南北1 m×7 mの「L」字形のトレンチ。西端部は旧建物の基礎が存在する。現地表面から約80~100 cmまでは構内造成時等の埋め土で、その下にはAトレンチ同様、新旧2層の旧水田耕作土が認められる。上層の第2層は層厚5~20 cm、下層の第3層は最大層厚約15 cmで南半部を中心に客土されている。その下には床土をはさんで植物遺体を含む黄褐色粘質土が堆積するが、層厚は最大でも約10 cmで、南端部に分布するにすぎない。さらに最大層厚各25 cmの第9層：黄灰色土、第10層：灰色土が堆積する。その下位には最大層厚約20 cmの第11層：灰色粘質土が南東隅にブロック状に堆積し第12層：灰オリーブ色砂に続く。第11・12層は植物遺体を含む。

遺物は、旧水田耕作土から剥片、第9層から細石刃・剥片、第10層から二次加工のある剥片・剥片、第12層から剥片が出土した。

掘削は遺物を包含する第12層まで行ったが、剥片1点が同層上面で出土したにとどまったため、最大約30 cmまでの掘り込みにとどめた。

C トレンチ

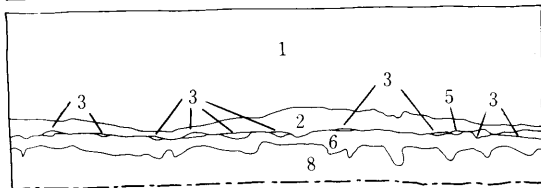
新営予定地の北東部に設定した東西1 m×8 m、南北1 m×5.5mの「L」字形のトレンチ。現地表面から約90~110 cmまでは構内造成時等の埋め土で、その下には新旧2層の旧水田耕作土が認められる。上層の第2層は層厚20~25 cmであるが、下層の第3層はブロッ

層 位

Aトレンチ
E 2.700m

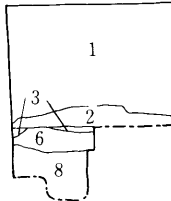
南壁

W



西壁

S 2.700m N



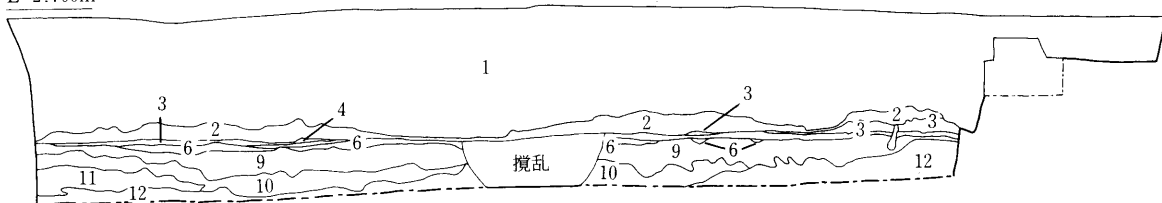
凡例

- 1 表土
- 2 旧耕作土1
- 3 旧耕作土2
- 4 床土
- 5 緑灰色土(7.5GY5/1)
- 6 黄褐色粘質土(2.5Y5/3)~植物遺体を含む
- 7 黄灰色土(2.5Y4/1)
- 8 オリーブ色砂(5Y5/4)~植物遺体を多量に含む
- 9 黄灰色土(2.5Y6/1)
- 10 灰色土(5Y5/1)
- 11 灰色粘質土(7.5Y5/1)~植物遺体を含む
- 12 灰オリーブ色砂(7.5Y5/2)~植物遺体を含む
- 13 灰色砂質土10Y5/1)~植物遺体を多量に含む

Bトレンチ
E 2.700m

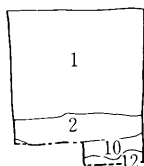
南壁

W



北壁

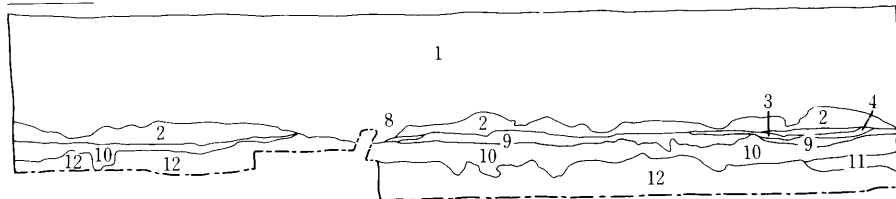
W 2.700m E



東壁

N 2.700m

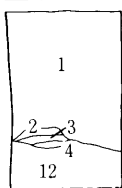
S



Cトレンチ

西壁

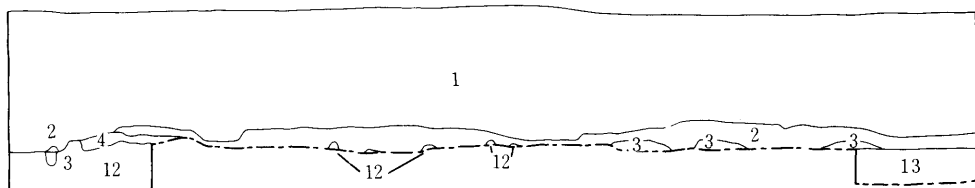
S 2.700m N



W 2.700m

北壁

E



南壁

N 2.700m

東壁

S

E 2.700m W

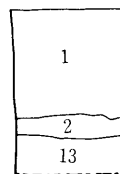
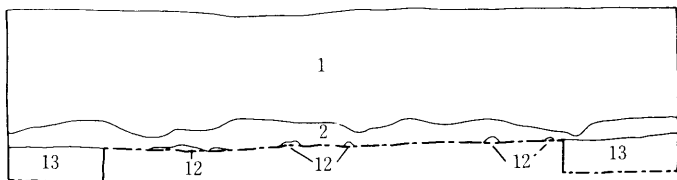


Fig. 25 土層断面実測図

ク状に部分的に残存するにすぎない。床土は西端部に存在する。その下位には植物遺体を含む第12層：灰オリーブ色砂、第13層：灰色砂質土が堆積する。

遺物は、上層の旧水田耕作土から剥片、床上から石核各1点が出土した。

3 出土遺物 (Fig. 26, PL. 24)

削器 (1)

縦長剥片を素材とし、背面左側縁上半および右側縁に腹面側から調整加工を施す。腹面側が主要剥離面で、原礫面を打面とし、打点が残存する。背面の3枚の剥離面と腹面の剥離方向は180°ずれている。Aトレンチ第2層出土。

細石刃 (2・3)

2は上端部が腹面からの加撃による2枚の剥離面によって打面、バルブが除去されている。背面右側縁および左側縁上半部に連続する微細な剥落痕が認められる。背面側には原礫面を残す。3は厚手で、上端部の平坦な原礫面を打面とする。原礫面付近に不純物の集中部が存在する。背面と腹面の剥離方向は180°ずれている。2はAトレンチ第2層、3はBトレンチ第9層出土。

二次加工のある剥片 (4)

上半部を欠損する。縦長剥片を素材とするものと思われ、主要剥離相当面の腹面右側縁に、主として背面側から二次加工が施される。背面右側縁の3枚の剥離面も調整加工の可能性がある。Bトレンチ第3層出土。

剥片 (5～7)

5は上半部を欠損し、背面と腹面の剥離方向が大きくずれている。6は不定形な縦長剥片で、平坦な打面を残す。腹面左側縁に原礫面を残し、不純物の集中部が随所に存在する。背面の左半部の剥離面と背面の右半部の剥離面および腹面の剥離方向は180°ずれている。7は小形の横長剥片で、平坦打面をもつ。6はBトレンチ第2層、5はBトレンチ第9層、7はCトレンチ第2層出土。

石核 (8)

上面および正面下半の各1枚の傾斜した比較的大きな剥離面を主な打面とする。打面は単剥離打面で、180°転位しながら剥離作業を行う。目的剥片は寸づまりな横長剥片である。Cトレンチ第4層出土。

なお、石器を包含する堆積層からは、歴史時代土師器、瓦質土器、国産陶磁器、瓦などの中～近世の遺物もあわせて出土している。

出土遺物・小結

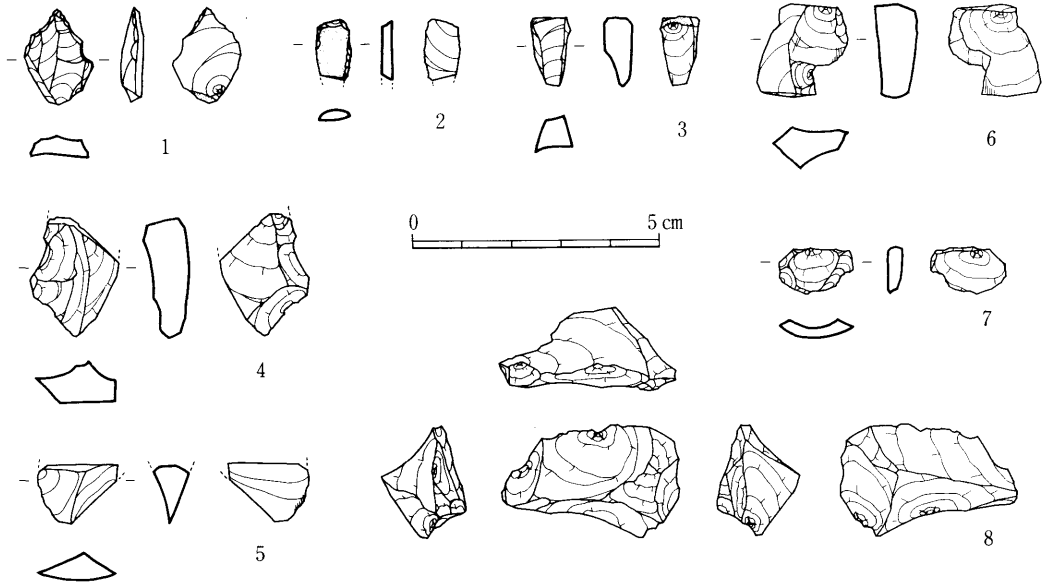


Fig. 26 出土遺物実測図

Tab. 4 出土遺物観察表

番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石質	出土層位
1	削器	19.0	14.0	5.0	1.0	蛇紋岩	Aトレンチ第2層
2	細石刃	(1.2)	0.7	0.2	0.2	流紋岩	Aトレンチ第2層
3	細石刃	13.5	8.0	6.5	0.8	チャート	Bトレンチ第9層
4	二次加工のある剥片	(24.0)	18.5	8.0	2.2	玻璃質安山岩	Bトレンチ第10層
5	剥片	(11.5)	(17.0)	(5.5)	0.6	姫島産黒曜石	Bトレンチ第9層
6	剥片	18.5	19.0	8.0	2.3	チャート	Bトレンチ第2層
7	剥片	9.0	17.5	3.0	0.4	チャート	Cトレンチ第2層
8	石核	22.0	37.0	17.5	7.2	玻璃質安山岩	Cトレンチ第4層

法量()は現存値

4 小結

今回の調査では、削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核など計12点が出土したが、病棟敷地での出土点数に比べて極めて少ない。出土層順は、旧水田耕作土および床土をはじめとした各堆積層で、平面的・垂直的な集中部は認められない。また、床土より下位の堆積層は、いずれも大きく時期の隔たる遺物が混在しており、粒土・組成・色調などからも純粋な遺物包含層とは考えられず、周辺から流入した二次堆積層と考えられる。病棟敷地で検出した、多量の石器を包含する灰色砂層に相当する堆積層は、第9層もしくは第10層と考えられるが、色調が若干異なることや出土量が極めて少ないことから、同一層として把握するには躊躇する。

出土点数が少ないが、剥片剥離技術は主要剥離面と背面の剥離方向が180°ずれるものがある

る。削器にみられるように、背面が対向する剝離面によって構成されるもので、両設打面の石核の存在が予想される。打面は、原礫面を打面とするものと調整打面をもつものがある。

石材は、チャート、蛇紋岩、姫島産黒曜石、玻璃質安山岩、流紋岩などで、出土点数に比較して多種におよぶ。小串構内はもとより宇部台地の遺跡群に共通する石材の選択行為である。流紋岩を石材とするものは、小串構内では初例の出土である。第一次剝片で、剝片長から小ぶりの円礫素材の細石刃核が想定される。

石器類は二次堆積層からの出土であるため、明確な石器組成を反映していないが、病棟敷地でナイフ形石器を包含する堆積層に相当する堆積層から出土していることから、ここでは大きくナイフ形石器文化期から細石刃文化期にかけての所産と理解しておく。

(河村)

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「小串構内医学部附属病院病棟新営に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報VII』、1988年)。
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「医学部附属病院病棟新営に伴う立会調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報VIII』、1990年)。

小串構内医学部附属病院MRI棟新営に伴う試掘調査
(1)



(1) 小串構内（医学部、同附属病院、医療短期大学部）キャンパス全景（南西から）



(2) 調査区全景（北から）

小串構内医学部附属病院MR1棟新営に伴う試掘調査 (2)



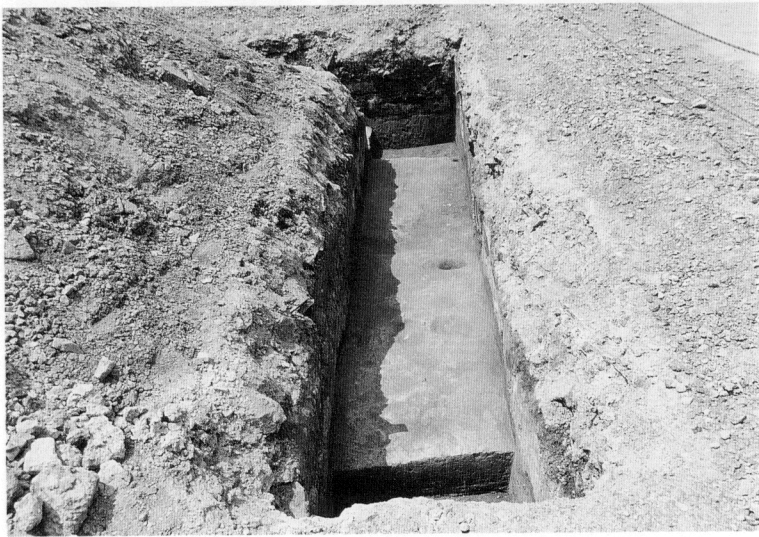
(1) Aトレンチ全景(東から)



(2) Bトレンチ南半部全景(西から)



(3) Bトレンチ北半部全景(北から)



(4) Cトレンチ南半部全景(南から)

小串構内医学部附属病院MR1棟新営に伴う試掘調査 (3)



(1) Cトレンチ北半部全景(西から)



(2) Aトレンチ南壁中央部土層断面(北から)

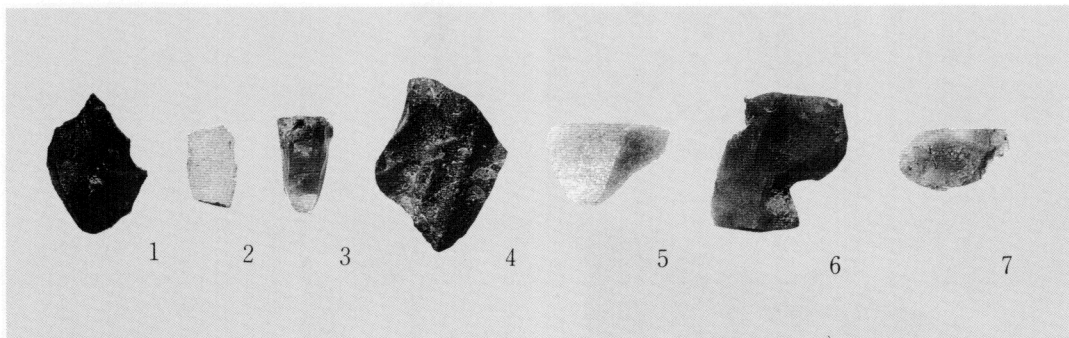


(3) Bトレンチ南東隅土層断面(北から)



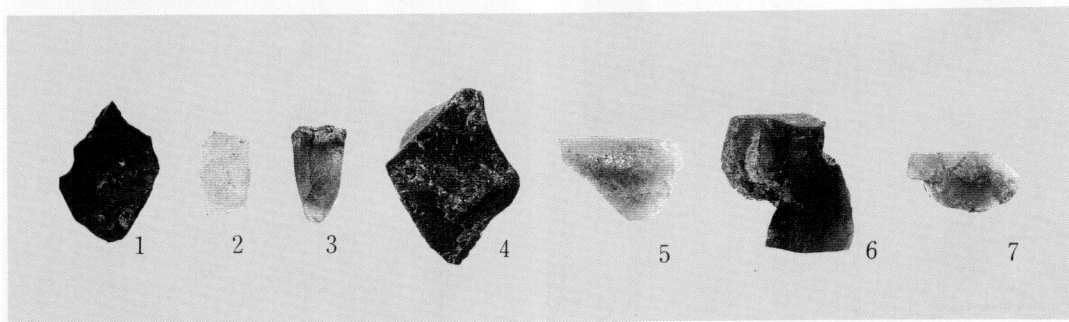
(4) Cトレンチ北東隅土層断面(西から)

小串構内医学部附属病院MRI棟新営に伴う試掘調査



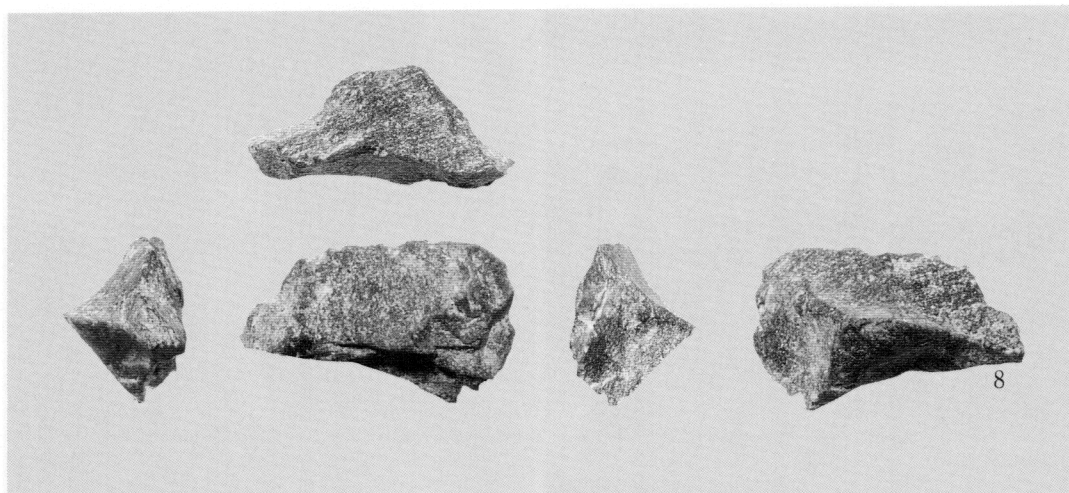
(1) 出土遺物(表)

約 1 : 1



(2) 出土遺物(裏)

約 1 : 1



(3) 出土遺物(石核)

約 1 : 1